

特集

疫学からみた 生活習慣病と下部尿路症状

鳥本一匡¹⁾ 平山暁秀²⁾ 藤本清秀¹⁾

奈良県立医科大学泌尿器科学教室¹⁾

近畿大学医学部奈良病院泌尿器科²⁾

Key Words コホート研究, 過活動膀胱, 夜間頻尿, 睡眠

奈良県で行われた大規模前向きコホート研究の結果を紹介する。夜間頻尿出現には、男性、肥満、排尿症状および過活動膀胱が、過活動膀胱出現には、男性、排尿症状およびうつ病が関連した。夜間排尿回数の増加は、降圧薬（カルシウム拮抗薬）使用割合の増加、推算糸球体濾過値の低下および日中身体活動量の減少と関連した。また、夜間排尿回数の増加は、主観的にも客観的にも睡眠の質の低下と関連した。生活環境については、夜間頻尿群で昼間室内気温がより低かった。

はじめに

奈良県立医科大学地域健康医学講座において、「藤原京スタディ」と「平城京スタディ」という2つの大規模前向きコホート研究が行われた。いずれの研究も高齢者を対象とし、面談による各種質問票調査に加えて健康状態や生活環境に関して客観的評価を詳細に行っており、生活習慣または生活習慣病と下部尿路症状（lower urinary tract symptoms；LUTS）（特に夜間頻尿）に関して質の高い疫学的知見を示している。

「藤原京スタディ」は、健やかに生活をしている高齢者のいわば「元気のヒケツ」を疫学的手法により科学的に明らかにすることを目的に、2007年より開始された。対象は、奈良県（橿原市、奈良市、大和郡山市、香芝市）に在住している65歳以上の男女4,427人であった。調査項目は、食事調査、身体測定、体力測定、問診、病歴聴取、アンケート調査（QOL、うつ、睡眠、身体活動、排尿など）、血液検査、口腔機能検査、認知機能検査、体力測定、骨密度検査、呼吸機能検査、眼底検査など多岐に亘る。

「平城京スタディ」は、温度や光といった住環境

Kazumasa Torimoto（講師）、Akihide Hirayama（准教授）、Kiyohide Fujimoto（教授）